

8. 子ども会活動と安全

1. 安全管理の考え方

子ども会活動をすすめるにあたり、参加者の安全については、十分に検討し活動計画をたて、ケガや事故を未然に防ぐよう努力が必要です。大切なことは「危ないからしてはだめ」ではなく、危険から身を守る経験を一つひとつ積み重ねる団体活動を通して、子ども達の安全能力を高めていくことです。「自分の体は自分で守る」という基本的な意識を育て、集団行動のルールが身につくようにしましょう。

子ども会活動には、非日常的な自然環境の中で行われるものもあります。日頃の生活で予想される危険とはかなり異なるものもありますので、事前に予想される潜在的な危険を予知し、無理のない計画づくりをしましょう。

子ども達の行動において、生命に関わると判断されることについては、断固として禁止の措置をとり、厳しく危険性を理解させることが必要です。

(1) 自然や環境での危険とは

- ① 気象によるもの：大雨・吹雪・強風・落雷・急激な天候の変化など
- ② 地形によるもの：転落・急斜面・岩場・落石など
- ③ 水場によるもの：水温・水深・水流・潮の流れなど
- ④ 地震によるもの：落下物・家屋の倒壊・火災など
- ⑤ 動植物によるもの：ハチ、アブ、毛虫、ヘビ、熊など

(2) 健康状態や活動技術での危険とは

- ① 健康状態：発熱・生理痛・便秘・下痢・歯の痛み・車酔いなど
- ② 怪我の原因：すべる、転ぶ、ぶつかる、おぼれる、落ちる、くじく、切る、はさむ、火、道具など
- ③ 怪我の状態：骨折、捻挫、打撲、擦り傷、切り傷、刺し傷、火傷など

(3) 人為的・心理的な危険とは

- ① 人間関係のこじれなどによる精神的、身体的な危険
- ② おふざけ、おしゃべり、うかれた気分など心理的な危険
- ③ 刃物や火、あるいは道具の扱い方の失敗による怪我、交通事故
- ④ 主催者、指導者の過失による危険、無理な計画、未熟な指導者による危険

2. 活動中の事故・緊急時の対応

計画や準備に万全の注意を払っても、活動中に事故が起きることがあります。事故が起こった場合などの緊急時の判断や処置および救急法の実際を理解し、危険を避けるだけでなく、事故が起こったときに対処できる力をつけておきましょう。

救急体制

- ① 負傷者に対する救急処置
- ② 事故報告（被害者の関係者・代表責任者）
- ③ 医師・消防署・警察への通報
- ④ 病院に対する措置・事前に活動に近い病院の確認
- ⑤ 現場保全の記録
- ⑥ 利用施設への報告と説明（結果報告も含む）

3. KYTとは

危険（KIKEN）予知（YOCHI）トレーニング（TRAINING）のそれぞれの頭文字をとったのがKYTです。これは危険を自ら予知し・発見し、あらかじめ対策を立てるというトレーニングの一つで、危険回避・状況の危険を自覚できる能力を身につけてもらうことをねらいとしています。昭和60年全国子ども会連合会の安全教育推進委員の研究会でKYTが取り上げられ、その後各地で安全教育の方法のひとつとして普及されています。

①KYTトレーニングの実際

子ども達全員が意見を出し合い、何が危険か、どんな危険が潜んでいるのかを自ら気づくようになることが重要です。グループ（5名～6名程度が効果的）に分かれ、子ども会活動風景が描かれているイラストを見ながら、参加者がそれぞれに危険と思われる個所を見つけチェックをします。一見何事もなく平穏に経過しそうに見える風景でも、そこに何らかの変化や作用が加わることで、事故を発生する要因が現れます。子ども、大人、それぞれの視点・経験・認識によって危険予知が異なりますので、子どもと大人がそれぞれの視点でKYTを行ってみることをお勧めします。

②KYT 3つの効用

- ① 活動の流れや起こりうる変化についての幅広い経験や理解
- ② ある状況や行動がもつ特徴やリスクに関する確かな知識や洞察力
- ③ 豊かな想像力

③KYT ルール・・・批判しない

- ① 質より量：全員にどんどん発言させる
- ② 自由に話せる雰囲気
- ③ 他人のアイデアを加工しても良い
- ④ 論議をさける

④KYTのすすめ方・・・5つの質問を順に投げ掛け、話し合うものです。

「まずは、役割分担（リーダー一人、記録一人）を決めましょう」

第1ステップ・・・「どんな危険がかかっているのかな？」（危険の発見・現状把握）。

（～したとしたら～になる・～なので～になるかも）

第2ステップ・・・「これが危険のポイントだ！」（特に重要なものは何か）

みんなの関心が高いもの、重大な事故の可能性のあるものを2～3個ピックアップして◎印をつけます。

第3ステップ・・・「私ならこうする！あなたならどうする？」（具体的対策を立てる）

みんなでどうしたらよいか考え、実行する行動目標を決めます。

第4ステップ・・・「私たちはこうする！」グループとして「必ずしなければならないこと」を行動目標として決め、1つか2つ×をつける。

第5ステップ・・・「～を～して～しよう」のようなスローガンを掲げ、活動中自分たちで、声かけをしたり、確認をしあったりしながら、安全で、楽しく仲良く活動できるようにしましょう。

4. K. Y. T (危険予知トレーニング) シート

氏名 _____

何をしているところか
タイトルをつけましょう



第1ステップ『 どんな危険がかかれていますか？ 』 みんなで考えよう

※一人でやるコース：気が付いた危険を書いてみよう

※グループでやるコース：みんなでどこが危ないか出し合ってみよう

個所	～したら	～だから	～になる	～するかも	原因チェック※
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					

メモ

※原因チェック ○服装による △場所・用具・環境による ×心身の状況による

第2ステップ『ここが危険のポイントだ』

第3ステップ『 私ならこうする 』

第4ステップ『 私だったらこうする 』必ずグループでしなければならないこと

第5ステップ グループでのスローガン 『 ~を~して~しよう 』

例) 声かけあって、みんなで気づこう、楽しもう!

5. 活動チェックシート

活動を計画・実施するにあたり、以下の項目について確認しましょう。また、確認は事前に行うだけでなく、実施後にも必ず行い、反省点などをまとめるなどして次回の活動に役立てるようにしましょう。

1. プログラムの作成		確認日	備考
①	子ども達の学年・体力などを考えたプログラムですか？		
②	子どもの参加人数に無理はありませんか？		
③	指導者は決まりましたか？（役割分担）		
④	タイムスケジュールに無理はありませんか？（時間・場所）		
⑤	子ども会活動としての目的が盛りこまれていますか？		
2. 下見のチェック		確認日	備考
①	実施場所周辺の下見をしましたか？		
②	野外の開催では地形を確認しましたか？		
③	地元の方からの情報を得ましたか？		
④	交通手段は安全ですか？（徒歩・バス・自家用車・地下鉄）		
⑤	子ども達の活動範囲を決めましたか？		
⑥	自然環境での変化に伴う対応は確認できていますか？		
⑦	活動エリアを見渡せる場所を確認しましたか？		
⑧	トイレ・着替え・日陰・休憩場所の確認をしましたか？		
⑨	連絡方法・体制の確認をしましたか？		
⑩	周りの病院や連絡所などの確認はしましたか？		
3. 管理体制のチェック		確認日	備考
①	救急箱（用具）を用意しましたか？		
②	動植物の情報を調べ、対処方法を用意しましたか？		
③	参加者の服装・携帯品の確認をしましたか？		
③	危険個所を地図や記録で確認しましたか？		
④	避難場所を確認しましたか？		
⑤	緊急時の連絡先、電話番号は調べましたか？		
⑥	携帯電話はつながりますか？		
⑦	緊急時の保護者や関係者への連絡体制を確認しましたか？		
⑧	安全対策のための説明会を実施しましたか？		
⑨	参加者の安全会への加入の再確認をしましたか？		
4. 活動前日および実施中のチェック		確認日	備考
①	育成者・子ども達の役割分担を確認しましたか？		
②	天候予報を確認しましたか？		
③	活動の当日、指導者・ジュニアリーダーなどは早めに集合し、受け入れ体制の確認・準備用具のチェックを行いましたか？		
④	子ども達および育成者の健康チェックをしましたか？		
⑤	情緒不安傾向の児童や注意を要する児童への個別的配慮はできましたか？		
⑥	定期的に、人数確認をしていましたか？		

⑦	子どもの単独行動にならないように配慮していましたか？		
⑧	子ども達に危険な生物や物、行動について注意をしましたか？（活動中の安全のきまりを知らせる）		
⑨	周囲の変化に注意をしていましたか？		
⑩	外部からの情報が入手できる状態になっていましたか？		
⑪	プログラムの進行状況を管理していましたか？		
5. 解散直後、事後のチェック		確認日	備考
①	参加者の点検と健康チェック		
②	帰路の交通安全の一声		
③	保護者に子どもに関する連絡事項をつたえましたか？		
④	安全対策に対する反省をしましたか？ ア. 参加した子ども達に活動の反省をさせ、記録にとどめ、次回に役立てるようにしましたか？ イ. 活動は楽しく、危険を感じたことはなかったか事前の安全のきまりは守れましたか？		
⑤	不幸にして事故が起きた場合は ア. 救急体制に切り換え、処置を行いましたか？ イ. 必要に応じて消防署、病院などへ連絡しましたか？ ウ. 子どもさんの家族への連絡をしましたか？ エ. 参加者全体を掌握し、不安や動揺を与えないように適切な情報を伝達しましたか？ オ. 事故発生の日時、状況などを正確に記録し、現場保全に努めましたか？		
⑥	今後どんなことに注意したらよいか、指導者・育成会・ジュニアリーダーなどと反省会をもち、子ども自身の感想・反省をふまえ、次のような点から反省・評価しましょう。 ア. 計画・実施の各段階における安全対策は適切でしたか？ イ. 指導体制や緊急・救急の際の対応や処置は適切でしたか？また役割は十分に果たせましたか？ ウ. 指導者の安全指導は適切でしたか？ エ. 家庭の理解と協力は得られましたか？		
⑦	協力機関への連絡、挨拶はしましたか？		